

第3回南城市地域交通会議 議事要旨

日時：平成26年3月19日(木) 16:30~18:15

場所：南城市役所 2F 玉城農村改善センター ホール

< 出席者 >

団体名等	氏名	備考
南城市	與那嶺 紘也	会長
琉球大学工学部環境建設工学科	神谷 大介	副会長
沖縄総合事務局 運輸部 企画室	小野 協子	
沖縄総合事務局 運輸部 陸上交通課	古堅 宗安	
沖縄県 企画部 交通政策課	座安 治	代理
沖縄総合事務局 南部国道事務所	照屋 悟	
沖縄県 (南部土木事務所)	佐久本 嗣純	代理
与那原警察署 交通課	平 晃	
一般社団法人 沖縄県ハイヤー・タクシー協会	津波古 修	
沖縄バス株式会社	大嶺 貴史	代理
株式会社琉球バス交通	大城 幸和	代理
東陽バス株式会社	普久原 朝啓	
大里タクシー合名会社	知念 武	
合名会社 山一交通	山田 隆一	
南城市民生委員児童委員連絡協議会	大城 宏光	
南城市区長会	新城 辰夫	
南城市商工会	宮城 斉	代理

< 議 事 要 旨 >

1.実証運行の利用状況と評価・今後の課題について

発言者	発言
委員	我々タクシー業界は、タクシーの台数も2割減らされているし、デマンドバスができたことによりさらに影響がある。現在は65歳以上と制限があるが、有償になって主婦や学生も使うようになるとさらに営業が圧迫されてしまうがその辺りはどのように考えているか。
会長	有償だと年齢制限ができないという問題点がある。いかに民間を圧迫せずに協働できるかが課題である。
事務局	行政が運営すると利用者の制限はできるのだが、民間に委託すると制限できなくなることが問題である。
委員	運行形態や運賃など協議会で図って、民間に委託した場合でも年齢制限できるかどうか確認してみる。
委員	1便あたりの利用者数は1、2人が多くなっているが、一人又は二人組での利用が多いのか、それとも、個人単位での利用が多いため、乗り合いでも1、2人の乗車が多くなっているのか。
事務局	便が空いているからということですぐに発車している状況なので、乗り合いになっていない場合がある。1日70名程度なら5台は必要ないが、夏場は増える可能性があるので5台で継続する。その後、利用者が減るようなら3台ぐらいに減らす。
委員	1便あたり2人以下がほとんど。知らない人と乗るのが不安という意見があったり、これぐらいの人数であったりするのならタクシーで良いのではないか。既存のバス・タクシー業者があるのに、公募をして新規事業者が参入されると余計に厳しくなる。実証実験を踏まえて、バス・タクシーを活用できるような方策が必要ではないか。
事務局	民間とうまく連携してやりたい。無償のうち市、有償は民間に任せたい。委託も1社ではなく複数でできないか交通会議で検討する。
委員	登録者数が行政区ごとで差があるのはなぜか。登録者数が伸びれば利用者也伸びると思うが、登録者・利用者を伸ばすための検討が必要ではないか。
事務局	民生委員や区長さんが率先して取り組んでいるところは登録が多い。別の仕事と掛け持ちでしている方もおりバラつきが出ている。4月に総会があるので促進したい。また、バス停まで行かないと利用できないという間違った情報もあり、正しい情報を周知する必要がある。

2.平成 26 年度の進め方について

発言者	発言
委員	タイムスケジュールは具体的に何月にするのか確定されているのか。
事務局	本会議は 4 月末から 5 月初め頃、計画案は 5 月から 6 月頃、公募は 6-7 月頃で 7 月には契約をして、秋頃に有償での実験を開始予定。
委員	その間は無償で実験を続けるのか。余計にお客さんがデマンドに流れてしまう。無償だと利用は多いが有償にしてお客さんが少なくなって、民間委託ではハードルが高く運営しにくい。スケジュールをみると早い。データをもっと蓄積して運行しても良いのではないか。
事務局	有償にした場合、運行がどうか把握したいので早めにした。有償になった地点で、民間に丸投げするのではない。市も運営費用を負担する。
副会長	バスやタクシーの利用が減っている大きな理由は何と考えられるか。
委員	1 番の理由は、自家用車が増えたといわれている。また観光でいうとレンタカーが増えたことが 1 番の理由。夜は、運転代行業者が増えたこと、また、景気も影響している。最近では、お店が一定額以上購入したお客さんに無料で送りのサービスをしたり、病院でも送迎を行っていたりして影響している。
副会長	レンタカー等の話もここ数年の話ではなく、ずっと増え続けている。その中で、具体的にどうしているか何ができるのか考え等はあるか。
委員	外的要因が大きい中で、魅力あるサービスをずっと検討している。ここ 5 年ぐらい、国の措置で適正化・活性化があるが、適正化で車両を減らし、活性化で各事業者ができる項目を選び取り組んでいる。例えば、スマホのアプリでタクシーを呼べるサービスの提供や、乗務員の資質向上に取り組んでいる。観光タクシーの認定制度もあり、認定者を輩出しているが利用増につながっていない。
副会長	バス・タクシー、デマンドを含めて、どのように交通弱者の手段を確保するのが重要。デマンドが利用されたのは不便な所という結果が出ている。レンタカーも確かに増えているが、格安航空運賃で学生の旅行が増えているのも事実。免許は持っていないのでレンタカーには乗れない。そういった新たなニーズに対してどうするか議論が必要。デマンドだけではなく、南城市・南部全体の交通をどういうふうにしていくのか議論があっても良いのでは。その中で各々の役割を考えることが重要。
委員	来年度の進め方として、不安や利用の仕方が不明で乗っていない人もいますので、乗ってくれるような広報も必要である。